

——手話のまちとして何をするにも仲間が必要です。

柴田さんは今、手話通訳者養成講座を受講中ですね。講座はどうですか？

柴田 今とはとにかく覚えることがたくさんあって、まだまだだなあと。手話はもちろん、文章を要約するとか、表情をつけるとか。特に顔の表情で表すのは大変で、例えばカレーライスを食べるにも、辛さを顔で表現しなさいと言われるんですが、なかなか難しくて…。

奥井 でも柴田さんは、今見ているとすごく表情がついていますよね！

柴田 それは初級講習会の先生だった町田さんから、ずつと言われてきたからかも。

町田 柴田さんはもともと表情がとっても自然です。本人はこう言いますが、ちゃんと手と一緒に表情もついていますよ。実は、手話がなくても表情だけで通じ合えることも結構多いんです。

柴田 今はまだ、楽しさよりも大変なことばかり。でも手話を習うようになって、いろんな方と出会い、お話をするきっかけがとて増えました。ろう者とも知り合い、「手話を勉強中です」と伝えると、途端にゆっくり手話をしてくれて、感謝しています。

——そんな皆さんが手話や要約筆記で大切にしていることは？

奥井 通訳の仕事は、対象者がいてこそなので、やはり対象者の身になるということでしょうか。

土谷 私もそう思います。加えて通訳の範囲を越えないようにも気を付けています。本人ができることには手を出さないように。その見極めは難しいですが、いつも要約筆記者がついて行けるわけではないので。

あとよくあるのは、話をする方が対象者ではなく、通訳者にばかり話し掛けてくること。そういう時は決して対象者をないがしろにしないよう、私に聞かれたことを必ず「こう聞かれています」と対象者にお伝えするようにしています。

柴田 私は目下、勉強中なので、とにかく正しく手話を覚えること。あとは聞いたままの日本語を言葉どおりではなく、どう表現すれば分かりやすく



手話を始めていろんな方と出会いました——柴田
(手話通訳者養成講座受講者)

なるのかを大切に、これから一生懸命勉強したいです。

町田 聞こえる方も聞こえない方も、お互いに相手の世界を知らないがために誤解を生むことはかなりあるんですよね。私たちはその間に入って、誤解し合っているものをつなぐ——それが通訳者の仕事だと思っています。

大事なのは気持ちを含めて、一生懸命にやること。結局、これがコミュニケーションの原点だと感じています。だから柴田さんには、机上の勉強だけではなく、何も無いところで通じ合えることも、ぜひ体験してほしいです。

柴田 講座でも「ろう者のところへ自分から行きなさい」とよく言われます。でもなかなか勇気が出なくて…。



▼親子で学ぶ手話

8/28に市役所で小学生と保護者を対象に開催。あいさつや名前などの手話表現を学び、聞こえないことについても考える場に。講師を務めたのはNPO法人石狩聴力障害者協会の杉本五郎会長。



対象者のことを一番に考え、お伝えするよう心掛けています——土谷
(要約筆記記者)



ろう者とは？ 耳の聞こえない人。手話という母語を持ち、手話でコミュニケーションをとって、日常生活を送る人のこと。

小さな頃から
手話に触れるのは
とても大切なことと
感じています——奥井

(登録手話通訳者)



——平成25年に手話基本条例が制定されて以来、まちの中で何か変化を感じますか？
※石狩市手話に関する基本条例
奥井 ろう者からはよく、石狩のお店に行ったら手話であいさつや「ありがとう」と表してくれたという話を聞きます。子どもたちをはじめ、ろう者への接し方がまちの中で少しずつ変わってきているのかもしれないですね。

町田 何を話しているのか分かりませんからね。でも、そこで初めてろう者の気持ち理解できます。分からなくてもまずは飛び込んで、あとは心で相手と接する。こういう共感の仕方って、実は子どもたちの方が上手で早いんですよ。
奥井 そういう意味でも、小さな頃から手話に触れるのはとても大切なことだと、私も出前講座をしながら感じています。

土谷 私も一度、スーパーで子どもが手話をしているのを見つけたことがあります。これは奥井さんたちの出前講座の成果だなと感じましたよ！
柴田 私が札幌の小学校に勤務していた頃、手話の出前講座はありませんでした。当時は、講座をやりたいと思って、ろう者を紹介いただくまでがとても大変で苦労しました。その点、石狩は恵まれていますよね。
町田 今、そうやって小学校や中学校で種をまいていますが、いよいよ芽が出てきたと感じることがありました。



▲花川北陽認定こども園
手話歌への取り組み
石狩市で手話基本条例が制定以来、積極的に手話歌に取り組み同園。新しい曲に挑戦するときは、先生が出前講座の講師から指導を受け、動画を見ながら一生懸命に逆手で覚えて子どもたちに教えているそう。



小西 朔矢くん



滝谷 叶翔くん

昨年の初級講習会に高校生の女の子がいたんですが、彼女は小学生の時に手話の出前講座を受けて、その後もずっと興味があり受講してくれたんです。今は学校生活が忙しいのでお休み中ですが、一度手話をかじった人は必ず戻ってきます！私も7年間のブランクを経て今があります。必ず、若い頃の体験は花開くと信じています。
あと、通訳者を派遣するケースには結婚式やお葬式もありますが、以前は式の当事者や家族がろう者でなければ、通訳はつけられないという決まりがありました。それを石狩市ではいち早く「参列者に通訳を必要とするろう者がいれば派遣できる」と変更したんです。例えば家族や親族以外のお葬式に参列する時も通訳は必要ですよ。通訳がなければどんな説法なのか、ご家族・ご親族はどんなあいさつをしているのか、ろう者には何も分かりません。市外のろう者から「石狩のお葬式に参列したら、通訳者のおかげで話の内容を知ることができてよかった」と本当に喜ばれて、「石狩ではいろんなところで通訳者がついてくれて、何でも分かるまちだ」と言われた時、つくづく条例のおかげだと感じました。

石狩は
「何でも分かるまち」と
ろう者に喜ばれるのも
条例のおかげです——町田

(専任手話通訳者)



手話と日本語の違いは？ 手話は日本語と異なる語彙や文法体系を持つ独自の言語。音声言語である日本語を、手指の動きで表現しているわけではありません。